

令和6年度 山形県発達障がい者支援施策推進委員会 議事概要

日時 令和7年1月20日（月）

14時00分～16時00分

方法 オンライン（Zoom）及び
県庁 講堂

1 開会

2 あいさつ 山形県健康福祉部障がい福祉課長

3 座長選出

4 報告

(1) 県障がい福祉課における取組みについて

→【資料1】に基づき、障がい福祉課より報告した。

(2) 県発達障がい者支援センターの取組みについて

→【資料2】に基づき、県発達障がい者支援センターより報告した。

(3) 圏域における発達障がい者支援体制整備事業の実施状況について

→【資料3】に基づき、村山、最上、置賜、庄内の各総合支庁子ども家庭支援課より報告した。

5 協議

「切れ目ない支援体制の推進について」

各機関の課題や取組、「やまがたサポートファイル」の活用状況等について

・〈委員1〉

活動状況としては主に毎月茶話会を開催している。初めて参加される保護者の方のお子さんの年齢が上がっており、中学や高校に入ってから問題になるという傾向がある。サポートファイルについては、保護者の方からは書いてみると書きにくいという声をよく聞く。ユーザーの声や他県のを参考にしながら、定期的な改訂でより伝えやすい形になって普及するとよい。特にセルフ版については、単なる履歴書ではなくて、本人がどういう暮らしをしたいかという点に重点を置いたものになると使いやすくなるのではないか。また、こども家庭センターが各市町村に設置されることになっているが、改めてこども家庭センターへのサポートファイルの周知もお願いしたい。入手する方法については市町村窓口でも紙ベースで置いてほしい。

・〈委員2〉

紙ベースのものを、障がい福祉部門と母子保健部門の窓口を設置している。また市内の相談支援事業所に配布をお願いしている。今年度からの新たな取り組みとしては、障がいのある子どもとその家族、学生ボランティアが遊びを通して交流を図るイベントを毎年実施しており、当該イベントにおいて紙ベースのものを設置して周知配布を行った。サポー

トファイルの課題としては、実際使用している方の利用状況の確認をしておらず、課題の把握ができていないところが課題と思っている。

・〈委員3〉

サポートファイルについては、福祉部門と健康部門の窓口においているが、紹介するタイミングが非常に難しいと感じている。市内には多機能型事業所があるが、サポートファイルを活用している保護者はメリットを感じているようなので、少しずつ他の保護者にも周知したいと考えている。今年度もペアレントプログラムや巡回相談を行っており、今後も様々な形で発達障がいのある子どもや保護者に寄り添った支援をしていきたい。

・〈委員4〉

就学のタイミングで小学校に伝えたいことをまとめるのにシート4の活用をお勧めしている。相談支援事業所の所感としては、サポートファイルを受け取る側のニーズやサポートファイルに対する認識はどうかというところがある。セルフ版について、大人になってからつまづきがあって、医療に繋げるお手伝いをした際、保護者の方がセルフ版に生育歴をまとめて医療機関に渡したところ、大変助かったと言われたことがあったと聞いた。成人の場合は、就労パスポートというものがすでにあるので、企業などはそちらの方が活用しやすいのではと思っている。

・〈委員5〉

診察場面で勧めるタイミングとしては、転居と高校入学前が二つの大きなポイントになる。書くのは負担が大きいので、動機がないと書けない。転居の際、家族は引っ越し先でも切れ目なく支援がもらえるかという不安を強く持っているので、これまで受けてきた支援をまとめて渡すということを動機として書くことを勧めている。高校は自立した社会の入口になり、これまで周りが推察をして必要な支援を与えるという形だったのが、自分が欲しい情報、サービス・支援を手に入れるという形にだんだんなるので、告知のタイミングは高校入学前を勧めていて、それと並行してセルフ版の作成を勧めている。

・〈委員6〉

特別支援学校でサポートファイルを持ってきた場合、個別の教育支援計画と指導計画に活用して、1人1人に合わせて支援している。教育委員会として、会議の場や第4次特別支援教育推進プランにも記載し周知を図っている。高校における特別支援教育を推進しており、セルフ版の活用までには至っていないが、自己理解の観点から、そのエッセンスだけでも活用してほしいと伝えているところである。

・〈委員7〉

特別支援学校の取り組みとして、外部専門家を配置し、研修会の開催やケース検討会における助言を依頼し、教員の専門性向上や指導上の課題の解決に向けて取り組んでいる。特別支援学校では、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、指導・支援にあたっているが、提供いただいたサポートファイル等の情報は大切に参考にし、よりよい指導支援に生かしていきたいと考えている。また、高等部あるいは高等養護学校では、中学校から入学してくる生徒が多いためよく活用されている。

・〈委員8〉

労働局はハローワークの上部機関であり、県内8ヶ所のハローワークが関係者と連携しながら雇用に関する事業支援を行っている。ハローワークの相談窓口で、利用者からサポ

ートファイルの話が出ることはほぼない状況。また、ハローワークでは、就労支援のための別のツールを主に活用することとなっており、あえてサポートファイル作成・活用にはならない状況にあると思われる。

・〈委員 9〉

当センターでは、民間企業に就職した障がいのある方の相談支援を行っている。サポートファイルについて、令和 6 年度は持参した人が 1 人もいなかったが、令和 5 年度は 5, 6 人ぐらいの方が持参したと聞いている。持参してもらえると、情報が整理されているので、特に相談受付の段階でその後の相談がしやすいと思っている。ただサポートファイルを書き足すような支援はしておらず、就職に向けて必要な情報についてはもう少し違う項目もあるため、独自のものを使用している。

・〈委員 10〉

ここ数年精神障がいや発達障がいの方の相談が非常に多いと感じている。母体の法人で運営している障がい者施設で、サポートファイルの活用について保護者会で説明し記載をお願いした記憶がある。事細かに記載されるようになっており、活用することで、特に発達障がいの方にとってはいいことだとは思いますが、活用されている感じは少ない。

・〈委員 11〉

児童相談所では、虐待対応が中心となっており、その対応に追われている現状がある。サポートファイルについては、発達相談や療育手帳の相談を受ける際に、実際話題に出ることはほとんどない。これまでは積極的に情報提供をしてくれなかったが、来年度以降については相談の際に、情報提供していこうという話になっている。

・〈委員 12〉

保育所などにおける障がいのある子どもは非常に増えているといわれており、全国で 9 万人、10 年前と比較すると約 2 倍になっており、こうしたことを踏まえるとサポートファイルが必要な場面は増えてきていると考える。その中で我々としては、加配が行えるよう財政支援と研修による人材育成を行っている。

・〈委員 13〉

障がい者の方々の雇用の促進に向けて、県内の民間企業における障がい者の実雇用率をより一層上げていく取り組みをしている。その取り組みの一環として、民間企業を回っているが、企業からサポートファイルに関しての話や要望を聞いたことがなかった。認知度や使い勝手の問題、重複感の解消といった点を検討することで、より一層使う方が増えるのではないかと。

情報提供【他県での活用状況について】

他県で作成されているサポートファイルは、発達障害ナビポータルで見ることができる。全国の状況として、大まかに県の教育委員会が中心となって作成するパターンと、県というよりは市区町村単位で作成するパターンが多かった。山形県のように障がい福祉部門と教育部門が協力して作成したものはあまりなく、そこが山形県の特徴と思われる。

東北でみると、県単位でサポートファイルを作成しているのは山形県以外では福島県のみのため、福島県に状況を確認した。福島県では平成 20 年に作成。福島県の特徴として、県で作成したものをベースにして、市町村で独自に作成することが増え、かなり多くの市

町村で作成されている。市町村で作成した場合、健診等を活用して配布することが可能のため、県で作成したものよりは市町村で作成したものの方が活用されているようだ。福島県の他に県独自で作成している県に確認したが、あまり活用が進んでいないようだった。

県で作成したものをベースにして、それぞれの市町村の実施体制や状況に合わせて市町村が作成した方が活用されているようなので、今後の一つの方向性として、山形県でも県で作成したものをベースとしつつ、それぞれの市町村の状況に応じた活用方法を検討していく方がより活用が進んでいくのかもしれないと思われた。

まとめ

〈座長〉

各委員の状況について、またサポートファイルについて特に集中的に情報提供いただいた。今後のサポートファイルの改善や、利用方法も含めいろいろ考えさせられた。サポートファイルの電子化、スマホのアプリはないか調べたところ、作っている市があった。スマホで記入し、提出するときは簡単に印刷できるようになっており、サポートファイル以外に県や市が出している様々な情報、役に立つ情報もみられるようになっていた。アプリを作っている自治体は多くないようだが、新しい情報にアクセスしやすかったり、ファイルを探さなくてもよいメリットがある。アプリについては、今後の課題、方向性の1つとして検討していただけるとありがたい。

では、本日いただいた多くの意見を踏まえ、各所属での発達障がい者の支援、施策の更なる推進に繋げていっていただきたい。

6 その他

7 閉会

以上